

「第2回京都大学ライフサイエンスショーケース@ San Diego 2021 (Online)」開催報告書

京都大学・医学研究科

1. イベント概要

項目	概要
イベント名	「第2回京都大学ライフサイエンスショーケース@San Diego 2021(オンライン)」
目的	・京大を始めとする国内アカデミア発の医療領域のイノベーションの海外展開の支援 ・アカデミア発スタートアップが米国での起業・製品開発を学ぶ教育機会の提供 ・京大サンディエゴ研究拠点をハブとする UCSD との連携の強化と関係の発展
日程	2021年3月3日(水) 午前6時～午前10時(日本時間)
開催場所	オンライン(システムは Remo Conference を利用)
プログラム概要	JST 6:00 (PST 13:00/EST 16:00) 開会挨拶 JST 6:15 (PST 13:15/EST 16:15) ①ショーケース(18チームより医療シーズ・技術プレゼン紹介、各10分)、②ネットワーキング(投資家との協議・交渉) JST 10:00 (PST 17:00/EST 20:00) 閉会
対象技術領域	医薬品、再生医療等製品、医療機器、体外診断薬等としての将来の製品化に向けて研究開発中の先端的医療技術・シーズ
発表参加者	日本国内のアカデミア発スタートアップ企業で、研究開発中の医療シーズ・技術を米国にて事業化する計画を持つチームから募集したテーマから、主催・共催機関で設置した審査会議での協議を経て採択された18チーム
運営体制	【主催】京都大学医学研究科、京都大学サンディエゴ研究施設(KURC-SD)、京都大学学術研究支援室(KURA)、京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT) 【共催】神戸医療産業都市推進機構(FBRI)、日本貿易振興機構(JETRO) 【協力】関西イノベーションイニシアティブ(KSII)、関西・共創の森 【後援】日本医療研究開発機構(AMED)、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)、AIFAM アセットマネジメント株式会社、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン(LINK-J)、京都大学産官学連携本部、株式会社TLO 京都、京都大学イノベーションキャピタル(株)、Japan Forum for Innovation and Technology (JFIT) at UCSD、Science and Innovation for the Next Generation (SING)、KYOTO-SPARK

2. イベント実施報告

【背景及び目的】

京都大学大学院医学研究科では、UCSD 内に設置した京都大学サンディエゴ研究施設にて、本学で研究開発中の医療領域の先端的なシーズ・技術等をサンディエゴ近郊の投資家(個人投資家・VC企業)や製薬企業等に紹介し資金調達や提携の機会を協議するマッチングイベント「Kyoto University Life Science Showcase @ UCSD 2020 (KULS2020)」を、2020年2月27～28日に開催し、多くの参加者を得て盛会となりました。直後からのコロナ禍もあり、当初目的の資金調達や提

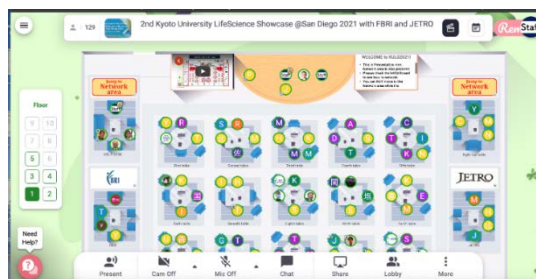
携構築で数多くの実績に繋がったという訳ではありませんが、聴講参加した製薬企業関係者やUCSD関係者と共同研究構築に至った発表チームも複数あり、一定の成果に繋がりました。

アカデミア発の医療領域のイノベーションの事業化・海外展開を支援することは本学としても引き続き重要な戦略課題のひとつであると考えられること、また米国の投資家や産業セクターには情報伝達や協議の機会が継続的に必要であること等から、昨年度の活動をさらに発展すべく、今年度も第2回目のイベント「第2回京都大学ライフサイエンスショーケース@San Diego 2021 (Online)」を企画し、神戸医療産業都市推進機構 (FBRI) 及び日本貿易振興機構 (JETRO) 始め第1回を上回る多くの後援団体の応援をいただき、2021年3月3日に開催致しました。

【今回の特徴・コンセプト】

今回の第2回ショーケースでは、イベントとしての認知度をあげ将来に向け持続的に成長させる目標も掲げ、京大発スタートアップのみにこだわるのではなく、日本国内のアカデミア発のスタートアップ企業に幅広く発表の機会として使って戴くこととしました。テーマ公募期間を設け、応募いただいた21の日本国内のアカデミア発のスタートアップ企業から、主催・共催機関で設置した審査会議での協議を経て採択された18チームに発表していただきました。

また、昨年度の第1回イベントと異なり、今回はコロナ禍の行動制限から、オンライン下でのイベントといたしました。ショーケースではプレゼンによる技術紹介はもとより、発表者・参加者同士の双方向の情報交換や協議が重要であるため、ネットワーキングを可能とする会議システムとして、欧米で主流となりつつある“Remo Conference”を用いました (右図は参加者が着席して聴講している様子)。



【イベント参加者】

イベントには米国ならびに日本の個人投資家・投資企業・製薬/バイオ/医療機器等企業から約350名の事前登録をいただきましたが、当日はそのうちの216名もの参加を得ました。国別では、日本からは146名、米国は61名でした。セクター別では、右表の通り、投資家が23名、製薬/医療機器/バイオテック系企業が60名、ベンチャー企業から30名、との分布となりました。

VC company	15
Investor / Angel	8
Startup / Venture	33
Pharmaceutical / Biotech	60
Consultant	4
Patent office/ Law Firm	4
Supporting organization	38
UC San Diego staff	9
Kyoto University staff	23
Researcher	5
Media	3
その他	14

【プログラム及びイベントの様子】

医学研究科・萩原教授の開会の御挨拶、ならびにUCSDのGutkind教授の来賓挨拶の後 (右はopening remarkの様子)、技術カテゴリー毎に分類した6つのセッションで、いずれのセッションも、3つのチームが10分ずつの発表を行い、その後10分間のネットワーキングを行う組み立てとしました。多機能なRemo Conferenceを活用し、各チームの発表はプレゼンテーションエリアで、発表が終わった後では興味を持った投資家や企業関係者が発表者と情報交換や協議をネットワーキングエリアで行っていただきました。



全体司会は、在サンディエゴの投資家である清泉貴志氏にお願いし、またセッション毎の各発表に対して質問や意見を述べてもらう役割を5名のコメンテーターにお願いし、各発表に対して熱のこもった議論が展開されました(右はある発表チームの質疑対応時の様子)。



Opening Remark

6:00 AM 開会の辞 Prof. Masatoshi Hagiwara, Vice Provost, Kyoto University
来賓挨拶 Prof. Silvio Gutkind, Department of Pharmacology, UC San Diego

Session 1: 抗体・バイオ医薬品の新技術

6:10 AM 1-1 iBody Inc.
6:20 AM 1-2 株式会社 Epsilon Molecular Engineering
6:30 AM 1-3 株式会社ブレイゾン・セラピューティクス
6:40 AM ネットワーキング

Session 2: 新規医療機器

6:50 AM 2-1 Triple W
7:00 AM 2-2 Syrinx
7:10 AM 2-3 iCorNet Laboratory Inc.
7:20 AM ネットワーキング

Session 3: 新規医薬品技術と細胞医療

7:30 AM 3-1 株式会社 aceRNA Technologies
7:40 AM 3-2 LUCA Science Inc.
7:50 AM 3-3 PuREC 株式会社
8:00 AM ネットワーキング

Session 4: コロナウイルス感染症の新規治療法と診断法

8:10 AM 4-1 Therabiopharma Inc.
8:20 AM 4-2 HiLung Inc.
8:30 AM 4-3 株式会社スディックスバイオテック
8:40 AM ネットワーキング

Session 5: 新規作用機序を持つ医薬品

8:50 AM 5-1 ファイメクス株式会社
9:00 AM 5-2 株式会社B T B創薬研究センター
9:10 AM 5-3 Progenicyte Japan Co., Ltd.
9:20 AM ネットワーキング
9:30 AM 祝辞 Prof. Sandra Brown, Vice Chancellor for Research, UC San Diego

Session 6: ガン治療の新技術

9:40 AM 6-1 株式会社 ReguGene
9:50 AM 6-2 KORTUC Inc.
10:00 AM 6-3 MediGear International Corporation
10:10 AM ネットワーキング

【ネットワーキングとその後の成果】

参加者ならびに18チームの発表者それぞれに対してアンケートを行い、イベントの感想等につ

いて確認しました。

参加者からは、日本のアカデミア発の多様な領域の先端技術が発表されたことや、プレゼンを聞いて気に入った発表チームとの直接協議ができた点等が高く評価されました。

発表者からは、ネットワーキングの時間がもっと欲しかった、より多くの投資家・製薬企業等の参加者と協議したかった、といった声があった一方で、イベント直後より投資家等から投資や提携に向けた連絡が入り次のアクションに向けた協議を既に開始したチームもありました。

3. おわりに

全国のアカデミア発ベンチャーから選んだ 18 のチームを揃え、また応援団体、UCSD・本学等の多くの関係者の御協力も得て、200 名を超える一般参加者を迎え、第 2 回のショーケースイベントを成功させることができました。

全体として日本のアカデミア発の医療シーズ・技術に高い関心がうかがわれ、今回のイベントを通じて本学はもとより国内アカデミア由来の先端技術の海外での開発が加速されること、また京大サンディエゴ研究施設がそのためのひとつの拠点になることが期待されます。

来年度もショーケースを開催する予定にしており、これまでの 2 回のイベント開催で得た課題・反省も踏まえつつ、取り組みを改善・発展させることで、引き続き科学技術研究からのイノベーション創出に貢献できるようにします。

以上